

名家連ニュース

平成 23 年 5 月 19 日 (木)
発行：名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀場 洋二
TEL (052) 411-2890 FAX (052) 411-7283
NO. 142 号

第四十五回 愛家連大会案内

五月二十八日(土) 午前十時半～
名駅前「ウイソクあいち」小ホール



「近所の人が外国人に入れ替わっ
てきた」といふ不安にさらされて
いるためだ。
「体内の有害な酵素を出すには、そ
れが最善」といふ言葉を吐き出し、
「火災で屋根が焼け落ちた自宅
に、そのまま一人で住んでいる。
全室は、同僚倉敷市の男性と二人
を掛けた。一大丈夫」と答えた男性
を掛けた。近藤さん
「何か困ったことはない？」セン
ターの精神保健福祉士、近藤さん
「近所の人が外国人に入れ替わっ
てきた」といふ不安にさらされて
いるためだ。

国も25カ所で事業予定

「精神障害者アワード」推進事
業が、本年度から始まる。
民間医療機関の訪問チームが、引
きこもりや近隣とのトラブルのある
未受診患者を訪問する。患者負担は
なく、チームの人員費や訪問の費用
は国が払う。七億円の予算で、二十
五カ所で実施する予定。
国は、精神科でも入院治療から在
宅治療への転換を進めており、事業
はその一環と位置付けている。

医療や福祉 届かぬ支援

名古屋市の友美さん(35)は、十年以上自宅から出ていない。母親(50)によると、短大卒業後、家にもりがちになり、二十五歳のころ、精神疾患の一つ、統合失調症と疑われる症状が出始めた。おとなしい友美さんが突然、家で暴れるようになった。本組をひっくり返し、脈絡なく「死

未受診・在宅の精神疾患患者

精神疾患の患者には異常を感じても、病気が認めない人が多い。そのため医療機関を受診できず、必要な福祉サービスにたどり着けない場合がある。精神障害者の家族会としては、未受診の人への支援の充実を求める声が上がっている。(佐藤大)

行政やNPO「まず病院へ」

「訪問診療をしてくれる精神科
医は、見つからなかった。精神科の病院、診療所の二重弱が訪問診療をしているが、受診拒否の人では診察が成り立たず、お金にならないからだ。ひきこもりの人の支援を掲げるNPOにも相談した。精神疾患ではないか」と念押しされ、「病院に行ってください」と言われた。

本人が拒否、悩む家族

「病院に行かないから、ここに相談したのに」。母親はむなしかった。
名古屋市の精神障害者家族会連合会の堀場洋二会長によると、同会の電話相談でも、受診拒否に悩む親からの相談が多い。堀場さんは「医療や福祉などの支援を早く届けば、本人の抱える問題が深刻になるのを防いで、家族も救われる。必要なら必要な支援が届く体制を」と訴える。

第13回 名家連大会開催

5月21日(土) 午後1時半～ 健身会館 3階大会議室

当日 年会費(1万円)を集めます

午後2時半～
成年後見あんしんセンター事業の概要

講演講師 弘田 直紀氏
(成年後見あんしんセンター所長)

